

## グループ協議

### 【個別最適な学び】

(グループで演技する場を設けたことについて)

- 苦手な児童に合わせるのではなく、個々でできることをするというのがよかった。
- アーティスティックマットは、簡単な技でもそろそろと素敵のため、誰が苦手なのかが分からないのがよかった。
- 演技構成のバリエーションが豊富で、マットの置き方がグループごとで違っていたのがよかった。
- 着地がマットの外だったときがあったり、マットがずれたりするときがあった。安全面に不安があった。

### 【技能向上や自己の成長を成果として実感することにつながったかについて】

- 全体的に技能が高く、技のポイントを意識できていた。
- 音楽に合わせるのが精一杯で、技の完成度(手の付き方など)を高めることができていないグループがあった。
- 技能面でも評価が分かりづらい。手の付き方などしっかりと見ることができるのか。

### 【協働的な学び】

(グループでの話し合いについて)

- ペアのグループがどこを見たらいいのかが分かるので、アピールポイントがよかった。
- ルーブリックを効果的に活用して話し合いができていた。
- ルーブリック評価がとてもよかった。グループの目標設定のしやすさ、ペアのグループの評価すべきポイントが明確になっていた。
- 他のグループにアドバイスをするとき、細かく手をどう付くかなども伝えることができていた。
- 音楽を流し続けるのではなく曲を止めて、グループの課題を確認する時間を設けてもよいのではないか。
- ホワイトボードに記載していたルーブリック評価は、授業ごとで消していたので、蓄積ができないのが残念だった。写真を撮るなど、残すとよいのではないか。

(課題解決を目指す協働的な学びにつながったかについて)

- 自分の役割が演技の中にあり、全員いないと完成しないという雰囲気があり、苦手な子の所属感や充実感を持たせることができていた。
- 各グループのねらいが明確で、何をするかよく分かって練習することができていた。
- 児童が楽しめていたので、マット運動を嫌いにならないで済むと思う。

(その他)

- 男女分け隔てなく関わり、和やかな雰囲気でもよかった。
- 準備運動や感覚づくり運動のときに、音楽をかけることでテンポよく活動できていた。運動量の確保にもつながっていた。
- 遅延再生機能は、単元の前半の基礎練習などの個人練習で使うと効果的であった。
- マット運動の若年研で先生たちが動画で見本を作成したものを、児童に見せることで「自分たちもやってみたい。」と意欲を高めることができた。
- ICTを必要最低限の使用で効果的に活用できていた。
- 評価する際に、上から撮影すると全体の動きが確認しやすく評価しやすいこともある。